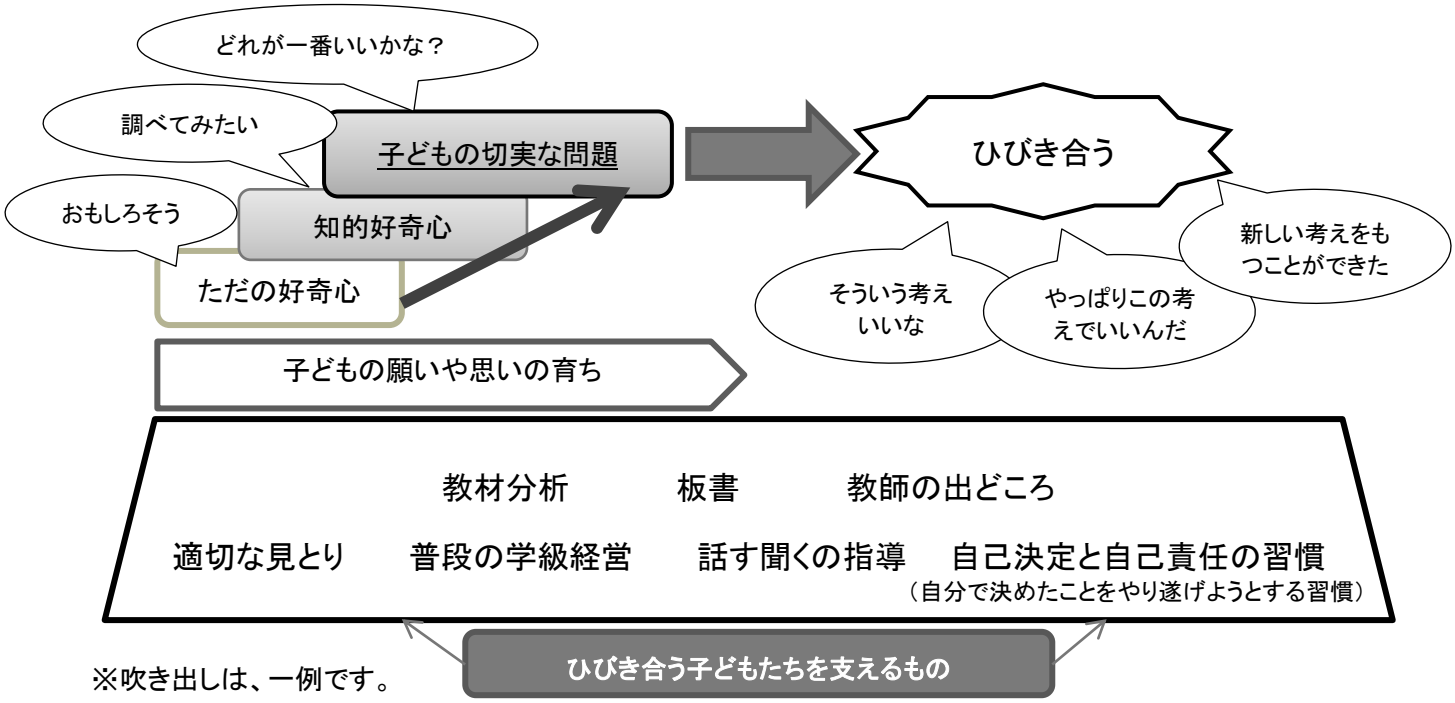
三の丸小学校　校内共同研究

研究の概要

テーマ 「ひびき合う　三の丸の子どもたち」

研究課題・・・切実な問題意識をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

「子ども自身が切実な問題と出会った時、ひびき合い、高まり合うだろう」という考えから、
その学習は子どもにとっての切実な問題であるかどうか、それに基づいてひびき合っているかどうかを考え、実践をしてきています。



※吹き出しは、一例です。

「切実な問題」とは

子どもが「切実だ」と思う問題には、以下のような「3つの条件」を満たす。

① 事実に基づく問題
② 多様な、あるいは異質な考えや立場に出会う・知ることができる問題
③ 葛藤をうちに持つ。単純に自分で判断できない問題

→ 共通理解のうえ、職員で具体的に言葉にしていく（資料2．3参照）

ひびき合う姿とは

ひびき合い＝みんなで関わり合いながら、よりよいものをめざし、
よりよいものを築き上げていく姿。
目に見える、または目に目ないけど、単元のねらいにより近づく心の変容（「強化」「変化」「統合」）

ブロックテーマ

低学年	中学年	高学年	個学
感じる心、 素直に表現する自分 ・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや他者からの刺激に対し、素直に表現する姿	**追究する力、 仲間と支え合う自分** ・自分の問題をとことん追求する姿 ・仲間と共同して追究する姿	**仲間への共感、 自立する自分** ・仲間に共感しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿	**感じる心、 気持ちを伝える自分**

(1) 研究課題と手だて設定の理由

本校の児童の実態として、安定した家庭環境の中で育ち、与えられる課題には素直に取り組む良い子が多くいる。勉強しようという気持ちがあるよさがある一方で、互いに学びあい、自らより良いものを生み出したり、追究したり、解決したりという「学ぶ」力に欠ける。小田原の中心地に住む三の丸の子どもたちは、小田原の未来を担う子どもたちであり、未来を創る子どもたちである。学校教育目標にも文言があるとおり、その「地域で学び　響き合う　未来を創る子どもたち」を育てることが求められているのである。そこで、本研究では、目の前にある問題に対し、「みんなで追究したい」そのために「友だちの意見を聞きたい」「自分の考えを伝えたい」という気持ちをもって学習の場に臨む子どもたちを目指したい。そして、その学びの過程で、自分を変化させたり、新しいことを発見したり、考えを深めたりする姿に到達することである。

子どもたちが本当の意味で「ひびき合う」には、そこまでの思いと願いの育ちから生まれる「切実な問題」が必要であると考える。

そうした子どもたちの学びの過程を大切にするために、

①何と出会い、子どもの思いや願いをどう育て、どのように切実な問題を子どもと創るか

②どのような学びの可能性があるのか

③どこで、どのようにひびき合いの場をつくり、ねらいに到達させたいか

といった学びの道筋＝指導の道筋を記す「単元構想づくり」を今年も手立ての一つとして大切にしていく。単元構想は、子どもの実際の学びと共に、変化のあるものである。子どもの思考過程が予想と違うことがある。その時の子どもの思考過程に寄り添い、問題に思っていることはなんなのかを捉え、単元構想に加除・修正を加えながら、子どもと共に授業を創っていくことを目指す。

(2) 研究方法

・研究授業（参観＆実践）、学級経営検討会の開催

・全体研　年間３回　（低＝　　中＝　　高＝　　＞一名ずつ

・1人1回授業公開

・全体研３回とブロックの授業５回(4 回)は必ず見に行く。

今年は、年間で校内研究日を設定し、年度当初にどこで授業公開するかを決定する。公開日はずらさずことは基本的にはしない。

<u>事前に、打ち合わせの時間に、</u>

① 「子どもが、どんな思いで、どのような問題に向きあっているのか」

② 「どのようなひびきあいの姿をめざしているのか」

を職員に話す。

・研究同人の参加・小林先生による指導・助言による研究の深化

① 単元構想づくり＜例　参照＞

・一度全員で、単元構想づくりについての研修をする。

・どこの単元なら、子どもが切実な問題に出会い、追究し、ひびき合うのかを、学年またはブロックでよく相談しあう。

・事前に（前もって）自分で作ってみて、学年やブロックで検討し、授業に臨む。

・授業では、簡単な指導案＜A41 枚程度でもよい＞（児童の実態および単元と指導について）+単元構想＋本時案のみ

② みとり

・単元（もしくは年間）を通して、何人かを詳しく見とる。この子については、具体的な記録を取ったり（行動観察、成果物からの記録、写真）、学年やブロックでも普段から情報交換したりする。

・どんなことが、目の前の子どもにとって切実な問題になりそうか、普段の学級での様子、興味関心などをよく見とって単元構想を描いていく。

・本時案には 2～3 人くらい抽出し、その単元の中での子どもの思いや期待する変容・ひびき合う姿を詳しく書けるようにする。＜ただ、書かなくても、そのような見とりができるだけ多くの子に対しできるようにスキルアップを目指す＞

・本時案に書く子は、本時で、ひびき合っていたかを見とるための視点となる子である。

「ひびき合いのキーマンになり、活躍が期待できる子」

「ひびき合いによって変化が期待できる子」

「ひびき合うために、支援を必要とし、気になっている子」

③ 授業研究

・国語、社会、算数、理科、生活、総合、生活単元学習。

・子どもたちが切実な問題を解決していこうと、友だちとひびき合う場面をみあえるようにする。（必然的に導入はない）個学は実態に応じて、好奇心を喚起する場面や導入でもよい。

④ 授業研究の視点

1. 子どもにとって切実な問題であったか。
2. ひびきあっていたか。
3. それを支える（みとり、学級経営、話す・聴くの指導、自己決定と自己責任の習慣、教材分析、板書、教師の出どころ）は、適切だったか？

の 3 つを中心に話し合う。話し合いは、授業での子どもの言動をよく観察し、発言・反応・活動・表現物から見とったことを話し合えるようにする。そのために、写真、授業記録を取って話し合う。

協議記録は分かりやすく、まとめる。（記録の仕方は資料4参照）

(3) 年間計画と研究組織

低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
山本　薮田　鈴木雅	柴田　山崎　桶屋	譲原　牧岡
伊瀬谷　内田　竹内	土屋　星野　武井	市川　宇根　時村
足立　田中　多田	教頭　物部　鈴木淳	小田島　北村　校長

４月９日　**第一回校内研全体会**

５月８日　**第二回校内研全体会**　（研究授業日の決定）

（① 元構想の作り方研修　②協議の仕方研修　　③各ブロックの「めざすひびきあう姿」づくり）

６月　**学級経営検討会①**　学級経営案について交流会、聞く話す指導についての情報交換

７月　**学級経営検討会②**　学級経営案の見直し、聞く話す指導についての情報交換、
共通理解したい子どもについて

10 月 2 日または 3 日　**第三回校内研全体会**　小林先生来校（研究授業　高ブロ）

11 月 19 日　**第四回校内研全体会**　小林先生来校（研究授業　中ブロ）

１月 28 日　**第五回校内研全体会**　小林先生来校（研究授業　低ブロ）

２月　４日　**学級経営検討会③**　　学級経営（みとった子どもの育ち）報告会

２月中旬　　研究紀要まとめ＜冬休み中から進めておけるとよい＞

３月　６日　**第六回校内研全体会**　（年間反省・次年度の方向）

(4)　まとめ方

昨年度までと同様HPに載せます。研究授業での実践（単元構想、本時案、本時の様子、研究の成果と課題）のみです。